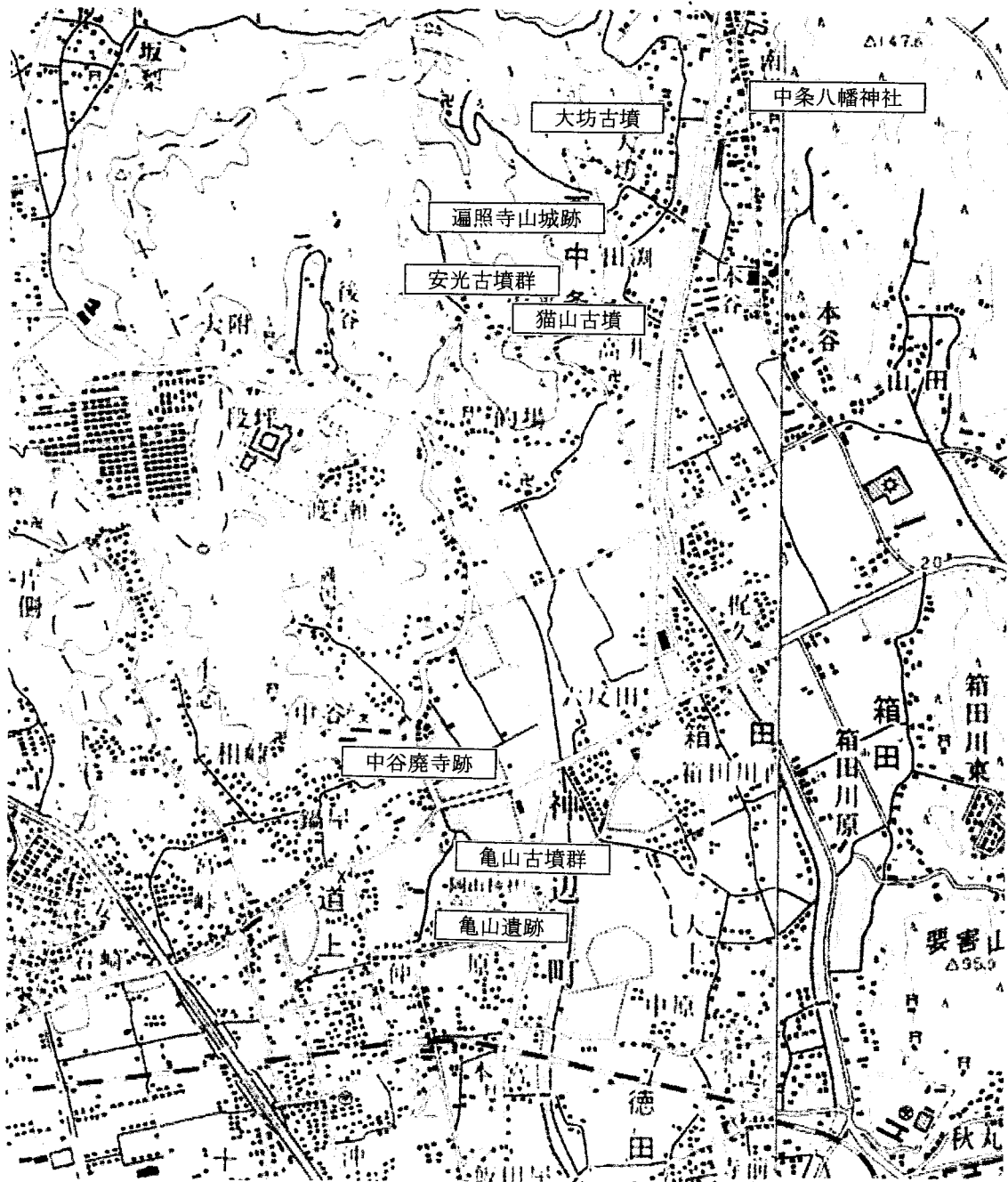


第27回 親と子の古墳めぐり

初夏の神辺路を訪ねる



備陽史探訪の会

親と子の古墳めぐり行程

○5月5日(火) 晴れ!

- 8:40 福山駅前(バス)出発
- 9:15 宮の下バス停着 (現地にて受付)
- 9:30 開会式(中条八幡神社)
- 9:45 出発!
- 10:00 「大坊古墳」(広島県指定史跡)探訪
- 10:30 「猫山古墳」探訪
- 11:00 「安光古墳群」探訪
- 11:30 お弁当タイム(「遍照寺山城跡」の探訪も!?)
- 13:00 お楽しみクイズ大会
- 14:00 「中谷麿寺跡」(福山市指定史跡)探訪
- 14:45 「亀山遺跡」(広島県指定史跡)探訪
- 15:00 「亀山第1号古墳」探訪
- 15:30 閉会式・解散

※福塩線(道上駅) (上り)16:02 16:35

(下り)15:54 16:28

古墳時代のことを知ろう！

古墳(こふん)時代は、今から約 1,750 年前(3世紀)～1,300 年前(8世紀)のことです。

「古墳」というのは、土を盛り上げて作られたお墓のことです。その表面には石が敷き詰められていて、頂上やまわりには「埴輪(はにわ)」が並ぶものがあります。古墳の中には、棺を納めるための石室がありました。棺の中には遺体のほかに、鏡や剣・武器や武具などが納められていました。

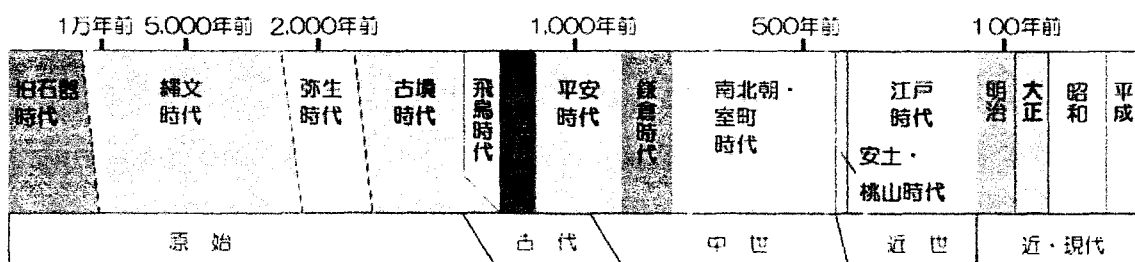
3世紀の後半の古い古墳の中でも大型のものは、大和(今の奈良県)地域に多く作られました。このことから、大和を中心とした地域に、強い権力を持つ王がいた、と考えられています。

5世紀の後半には、九州北部から関東地方までの、それぞれの地域の権力者は、大和を中心とした勢力に従うようになったと考えられています。そうした大和の権力者を、中国では「倭王(わおう)」と、国内では「大王(おおきみ)」と呼びました。

大きな古墳をつくるということは、その人に権力があることを示していました。けれども、中国大陸や朝鮮半島から新しい技術や政治の方法が取り入れられると、大きな古墳を作る必要がなくなりました。

奈良時代は、こうした新しい考え方による国づくりが進められた時代です。

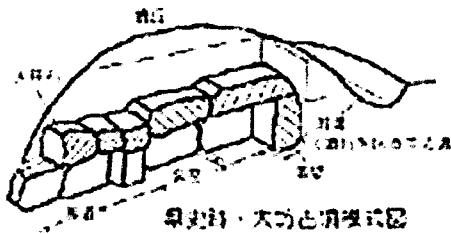
歴 史 年 表



大 坊 古 墳

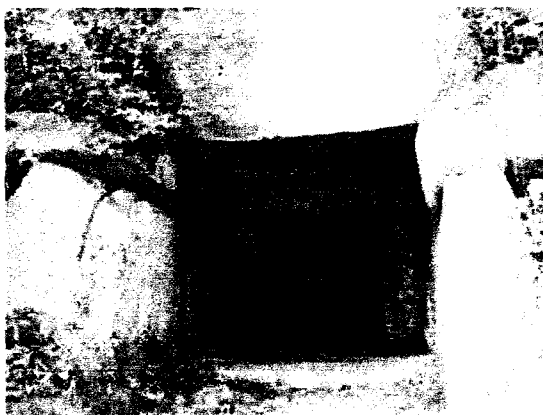
この古墳は、中条の谷を見渡す丘陵の東斜面に作られています。直径は 約 14メートル・高さ約5メートルの南北方向がやや長い「円墳」です。

遺体をおさめた「横穴式石室」の入り口は南東に向けて開いていて、石室の長さは約 11.3メートル、幅・高さとも約2メートルと大規模なものです。けれども、昔から入り口が開いていたために、残念ですが石室内の副葬品は不明です。



この石室の特徴としては、

- ① 花こう岩の表面を磨いたような石材を使用していること
 - ② 玄室（遺体を葬る部屋）と羨道（玄室へいたる廊下）がほぼ同じ規模で設計されていること
- があげられます。



また、玄室が床面の中央に置かれた2個の石によって前後の2室に分けられています。さらに、玄室の入口には2本の石柱が立てられています。

これらの特徴から、大坊古墳は古墳時代も終わりに近い7世紀の初め頃に、この地方の有力な豪族の家族墓として築かれたものと考えられます。

猫山古墳

この古墳は、神辺平野を見渡す、舌状に突き出た台地の先端部に築かれています。

すべて盛り土された、直径約30メートルの円墳で、円筒埴輪が出土しています。

これらのことから、古墳時代の中ごろである5世紀に作られたものであろう、と考えられます。

安光古墳群

古墳時代でも、後期と呼ばれる6世紀になると、小規模の古墳が一箇所に集中して何基も作られることがあります。

斜面を利用して、2・3基から多いときには何十基も作られる、このような小さな古墳の集まりを「群集墳（ぐんしゅうふん）」と言います。

この安光古墳群では、今のところ、5基の古墳が見つっています。

その中でも一番大きいのが、道から少し斜面を上がったところにある「カンカン石古墳」です。長さ約7.8メートル、幅1.5メートルの横穴式石室を見ることができます。石室の奥には石仏がお祭りされていますが、古墳時代のものではありません。



カンカン石古墳

前方後円墳



前方後方墳



双方中円墳



帆立貝式古墳



円墳



方墳



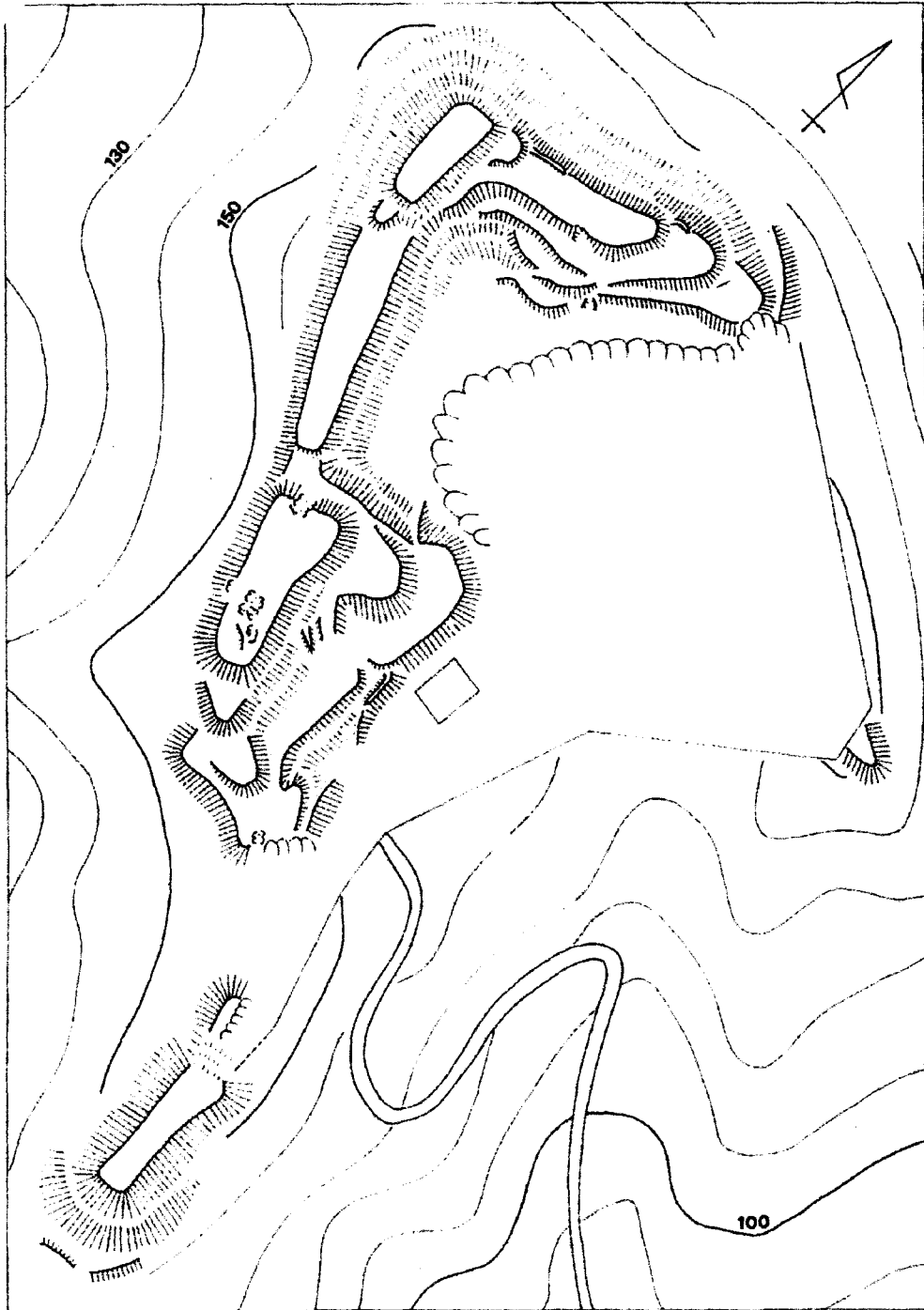
さまざまな古墳
(横試図)

このほかにも、斜面のあちらこちらに古墳を見つけることができます。

どれも横穴式石室ですが、こわされているものが多いので、くわしい時代などはよくわかりません。

遍照寺山城跡

東側の谷の部分に墓地の造成によって壊されていますが、山頂を中心に「郭（くるわ）」という平らな部分がよく残されています。



遍照寺山城跡

中谷 廃 寺 跡

今から約1300年余り前に建立されたお寺の跡です。

校門を入るとすぐ目の前に建物跡(第2建物)があります。飛び飛びに並んでいる石は礎石で、この上に柱が立てられ、講堂という建物があったと考えられています。講堂では、説教や講義が行われていました。

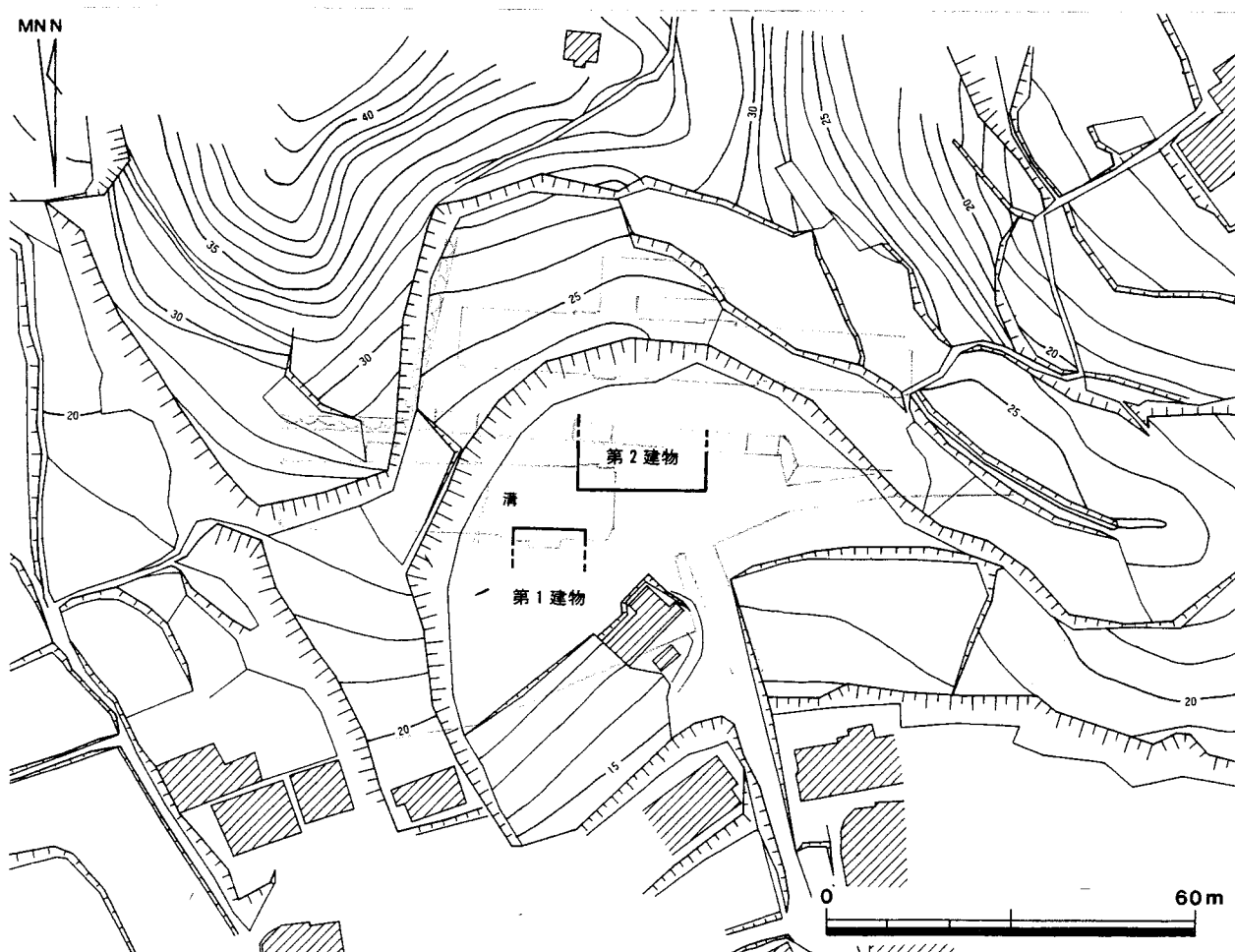
下の図を見てください。道上小学校のある場所の昔の地図に、校庭や校舎を重ねたものです。

校舎を建てるときの調査で、第2建物の南西側で第1建物も見つかりました。この建物は、塔と考えられています。

このお寺が立てられた時代の主要な建物には、塔と講堂のほかに金堂があります。金堂は、本尊を安置する建物です。

第1建物が塔で、第2建物が講堂であれば、金堂は第2建物の南東側で、塔に並ぶように建っていたと考えられます。ちょうど校門の東側あたりです。

金堂・塔・講堂が、もし推定するように建っていたとすれば、奈良県にある法隆寺と同じ配置となり、法隆寺式伽藍(がらん)配置と呼び、広島県にはほかにありません。



中谷廃寺跡の旧地形図に校舎等を重ねた図

亀山遺跡と亀山古墳群

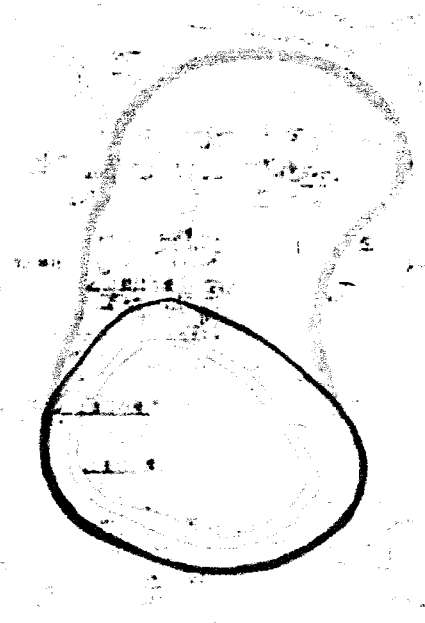


亀山遺跡遠景

亀山遺跡は、岡山神社のある丘陵一帯に広がる弥生時代のムラの跡です。

発掘調査の結果、東西約 250 メートル、南北約 350 メートルの広さであることがわかりました。

遺跡では、弥生時代の家の跡や土器が見つかるほかに、3重に廻らせた環濠（かんごう）が発見されています。外側の環濠からは、土を盛り上げた防御用の「土塁」も発見されています。



亀山遺跡の広さ

また、古墳時代には、この丘陵の北と南の頂部に古墳が築かれます（亀山古墳群）。

北頂部の第1号古墳は直径28メートル・高さ約2メートルの円墳で、5世紀前半に作られたと考えられます。

この古墳では、木をくりぬいて作った木棺のまわりを粘土で固めてありました。三角板革綴短甲（さんかくいたかわとじたんこう）と呼ばれる当時のヨロイや、鉄製の刀・鉄製の槍などが出土しています。



亀山第1号古墳のヨロイ

副葬品から、この古墳は5世紀の前半のものと考えられていますが、この時代の他の古墳と比べると量が多いのでかなり力を持っていた人の墓だと考えられます。

また、南頂部の第2号古墳は直径22メートルの円墳で5世紀代のものと推測され、箱式石棺や鉄器片が見つかっています。